

さらば愛しの淡青丸



1990年5月18日のこと、室戸岬のはるか沖合に、南海トラフ付加体の謎に挑む深海掘削船 Joides Resolution 号 (18,600 トン) の不動の姿がありました。黒潮とがっぷり四つに組んで46日目、船内の生鮮食料品はすでに底をつき、観測機材は消耗がひどく、作業は日に日に困難さを増すばかり。台湾近海で台風発生のお知らせは、乗船研究者29名の表情を一層暗くしました。

まさにそのとき、代替の機材を携えた淡青丸が、荒波を蹴立ててやってきたのです。機材だけではありません、新鮮なレタス・トマトに苺とバナナ、とろけるようなマグロの刺身・・・皆とびあがって喜び、JR号の食堂は一転、お祭り騒ぎとなりました。

つかの間が過ぎ、小さな船体を優雅に優雅に揺らしながら遠ざかっていく淡青丸。その後ろ姿は、ため息が出るほどの美形でありました。

(蒲生俊敬)